

あいわせのたより



発行責任者

西川 晃 二

【校長室より】

「しあわせ」とは

夏休みが終わりました。本校生にとっては、短い夏休みだったかと思います。1, 2年生は8月上旬からお盆までのほぼ2週間、3年生はお盆前後の1週間だけが夏休みでした。特に、中学時代までは約40日間の夏休みを過ごしてきた1年生にとっては中・高生活のギャップの一つかもしれません。学習のハードルとともにこの夏休みの短さは教師や親が想像する以上のものかもしれません。と同時に夏休みを機に生徒たちは良くも悪しくも変身(成長)します。先生方には、2学期を迎えた生徒たちの様子をじっくりと見守るようお願いしているところです。

また、2学期は、年間を通じて長い学期であり、学校行事も盛りだくさんです。その意味では切り替えを適切に行わないと自分を見失うことにもなりかねません。学習に、行事に懸命に取り組み、かつ「今」をどのようにとらえるかは生徒たち個々の姿勢にあるとも言えます。

ともあれ、明日から、五高祭、そして一週間後には体育祭が始まります。懸命に取り組む生徒たちの姿を見守りたいと思います。生徒たちは、きっと今年も素晴らしい「祭」を演じてくれるものと期待しています。

さて、先日、千代田、野口副会長とともに福井県で開催された全国PTA大会に参加しました。大会テーマは「教育と考福」です。これからの時代を生き抜く子どもたちの「しあわせ」を考えるという趣旨です。県民の幸福満足度、全国1位の福井県ならではのテーマ設定でした。脳科学者としてマスコミでも有名な茂木健一郎氏が基調講演をしました。大会テーマに即した講演内容でした。彼自身のフィールドに立っての、聴衆を見事に引きつける、話術巧みで、かつ興味深い講演内容でした。結論的に申し上げるならば、「『幸せの青い鳥』は身近なところにいるものです」という内容でした。私から言わせれば「身近なところ」とは、生まれ育った場所であり、育ててくれた家族です。それは自明でありすぎて人はややもすると意識しないものですが、自分を育ててくれた環境からは容易に抜け出せないのが人です。であれば、積極的に自分の周りを見つめ直し、これから生きていく道を模索していくことが大事なのです。若者は未来を見つめなさい、未来を志向しなさいと教えてきました。しかし、それは足下をきちんと見つめ、踏みしめてこそなせるものです。郷土を愛し、親や祖先への敬愛を失わない姿勢があってこそ、人として成長するものであるとの思いを強くしました。

朱子学の教えに「修身齐家治国平天下」という言葉があります。私は、折に触れ人に語っている言葉ですが、「自分の身を修め、家が平安であれば、国が治まり、ひいては世界は平和になる」つまり、世界が平和であるためには自分自身が克己精進し、家庭が穏和であることが必要であるということです。今風に言うならば、グローバル社会に対応するには自分自身を修めよということになるでしょうか。子どもたちにもう一度自分自身を振り返る機会を持ってほしいと思うところです。

8月上旬には九州地区校長会が鹿児島でありました。鹿児島在住の米国人ジェフリー・S・アイリッシュさんの講演がありました。彼は、エール大学、京都大学で学び、鹿児島の下甕島で定置網漁師になったり、高齢過疎の村、土喰(つちくれ)集落の自治会長になったりと20年来、鹿児島に住み着いた「風変わり」な外国人です。彼の講演を聴きながら「しあわせ」とは何か、「ゆたかさ」とは何か、と自問しながら聞いていました。と同時に、その時、読んでいたジャーナリスト・堤未果さんの「ルポ・貧困大国アメリカ」のレポートを思い出し、田舎の幸せと都会の便利さとは何なのか、などとも自問していました。

10月の、定時制の「人生の達人セミナー」では、五島・岐宿在住の鍛冶職人宮崎春生さんに講演をお願いしました。定時制の生徒たちに生きることを考えてほしいと思っての企画です。それは、定時制だけではありません、全日制生徒、若者すべてに聞いてほしいとも思います。宮崎さん自身も30才前の青年です。心つながるお話が聞けるものと期待しています。

今回は、結論めいたものを述べようとの【校長室より】ではありません。読者それぞれの思いでお読みいただければ幸いです。

しあわせは/いつも/じぶんのところが/きめる (相田みつを)

いばらき総文2014

【写真部門】

いばらき総文2014写真部門に参加してきました。開会式の後、受賞作品の講評がありました。写真が発する思い、喜び、悲しみなどに触れることができました。顧問会議では「写真部と地域貢献」をテーマに発表があり、病院や空き店舗で写真展を行ったり、市のカレンダーに写真を載せている学校が紹介されました。「写真は地域を元気にする」という発想は我が部に欠けている点であり、今後の課題となりました。2日目はひたちなか市・大洗町での撮影会でした。鮮魚市場や水族館で撮影をする傍ら、多くの先生方とお話をすることができました。最終日の講演会では、こんな言葉に出会いました。「ファイナダーの向こうにいる人の幸せをそっと祈る」「人が人を好きになるような写真を撮る」そんな気持ちで、写真と向き合いたいと思いました。

3日間、とても貴重な経験をさせていただきました。「写真を通して何ができるか。」生徒と共に考えていきたいと思います。

写真部顧問 増本欣也

写真部 3年1組 樽角 奈々美 さん



私は茨城県で行われた全国総合文化祭の写真部門に参加しました。受賞作品の講評を聞く中で、全体的なバランス、写真の色合い、光や影の使い方など1枚の写真を撮るのにいろいろなことを考えて、撮っていることが分かりました。また受賞作品以外でも、普通の人なら見逃すような日常の一瞬を切り取っていたり、今まで見たことがない工夫された作品を見ることができました。撮影会では、他県の高校生達と交流を深めながら、楽しく写真を撮ることができました。

総文祭での貴重な経験を通して、いろいろなことを学ぶことができたので、これからの学校生活に活かしていきたいです。

【新聞部門】

7月27日から7月29日まで茨城県で開催された全国高等学校総合文化祭に参加してきました。大会は、生徒同士の交流会に始まり、編集会議、そして地域へ飛び出での取材活動と取材を基にした新聞作りなど、多くの事を経験させて頂きました。全国上位校の新聞を目の当たりにして、まず新聞のクオリティの高さに驚きました。思わず見直してしまう程興味をそそる見出し、大人をも唖らせるほどの論説。その時に応じた社会情勢をしっかりと捉え、高校生らしい視点で真実を伝える。学校新聞は学校の出来事だけを伝えるのではなく、学校内外のニュースを報道するスクールジャーナリズムであることを痛感させられました。今回学んだことを活かし、マンネリ化しないチャレンジできる五高新聞を皆さんのもとにお届けしたいと思います。今後の五高新聞にご期待下さい。

新聞部顧問 石田奈美

新聞部部长 2年4組 橋本 千裕 さん

7月末に開催された全国高等学校総合文化祭に新聞部代表として参加してきました。大会では全国の仲間と新聞の交換をし、そして交流新聞作成を行いました。新聞作成では、各班に分かれ地域取材を行い、手書きの新聞作成を2日間という短い時間で行いました。手書きであること、短時間で仕上げるために、分単位で締め切りを課せられることも初めてであり、とても苦労しましたが、班員との協力により、とてもよい新聞ができました。また、他班の新聞を見ることも私にとってはとてもよい刺激となりました。これからの五高新聞作成に、今回学び得たことを活かし、今まで以上に内容の充実した新聞作成を行いたいと思います。応援ありがとうございました。



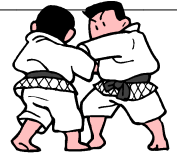
第111回石城会総会・懇親会

8月16日(土)「カンパーナホテル」において、第111回石城会総会と懇親会が150名を越える同窓生と本校職員出席のもとに盛大に開催されました。懇親会は卒業後10年目の同窓生が幹事で、五島市職員の三浦様を中心にチケット販売・会場準備・進行を行っていただきました。総会は、吉野榮一様(全国石城会会長)のあいさつで始まり、その後、西川晃二校長から五高生の現況報告、野口市太郎五島市長からは祝辞をいただきました。懇親会では、参加者一人ひとりに景品が配られ、会員の皆様はそれぞれに喜んでおられました。最後は、「五中・五高女・五高」の校歌を出席者全員で声高らかに斉唱し、26年度石城会総会・懇親会の幕を閉じました。

～全国大会報告～

煌めく青春南関東総体2014

【柔道】 2年6組 戸野本 幸輝 君 (8月2日～6日 成田市中台運動公園体育館)
インターハイに出場して



インターハイに出場し、私はまだまだ努力が足りないことを実感しました。今年是一次戦で敗退してしまったので、来年こそは自分の納得のいく結果を出したいと思います。応援してくださった方々、支えてくださった方々本当にありがとうございました。次は11月初旬に新人戦が行われるので、インターハイでの悔しさをバネに新人戦から優勝を目指して頑張りたいです。みなさんの応援よろしくお願ひいたします。

(顧問 引地勝は見た！)

男子個人100kg超級に出場した戸野本幸輝君(2年)は、8月4日に愛知県の大成高校(強豪校)の並木選手と対戦しました。試合は、最初は積極的に技を繰り出し互角に戦っていましたが、1分過ぎに相手の払い腰という技で1本をとられ、1回戦敗退という結果に終わりました。しかし、まだ2年生であり、今後の練習で力を付け、来年の3月に日本武道館で開催される全国選手権大会や、8月のインターハイで上位に進出することを期待しています。顧問として闘争心・筋力・技を融合した攻撃柔道を徹底させ、各種大会で上位大会に進出することができるよう指導してまいります。みなさま方の応援をよろしくお願ひします。

【百人一首かるた部】 全国大会結果報告

百人一首かるた部は、7月下旬に2つの全国大会に出場しました。その結果は以下の通りです。



全国高等学校小倉百人一首かるた選手権(7月20日)

1回戦 五島 1-4 益田(島根県) 1回戦敗退

全国高等学校総合文化祭・茨城大会(県代表に7名選出)

第1試合 長崎1-4 滋賀 第2試合 長崎1-4 広島

第3試合 長崎0-5 群馬 予選リーグ敗退

全国のレベルの高い選手相手に緊張したことが大きな敗因だと考えます。今後全国で対戦する相手は、レベルが上の選手ばかりとなりますので、上の相手であっても立ち向かう強い精神力を身につけていきたいです。次年度はよりよい結果を出せるように、これから精進して参ります。

今後とも応援よろしくお願ひ申し上げます。

百人一首かるた部 顧問 森 久子

全国大会を終えて 2年2組 道下 このみ さん

先日私たち百人一首かるた部は、滋賀県で開催された選手権大会、茨城県で開催されたいばらき総文祭の二つの大会に出場してきました。結果は1回戦敗退、予選リーグ敗退と、どちらも悔しい結果に終わりました。

しかし自分より強い相手と試合をすることによって自分たちの弱点が浮かび上がってきました。自分たちが負けた後、強豪校(県)の試合を見居て五島高校に取り入れるべき練習内容を見出すなど多くのことを得た大会でした。

私は来年が最後となります。来年は悔しい結果で終わらないように、今から1年間自分にできることを積み重ね来年の夏に繋げたいです。

普通科スポーツコース第1回体験入学(8月4日)



8月3日(日)に予定していた普通科スポーツコースの第1回体験入学は、台風のため、翌日4日(月)に延期しての実施となりました。多くの方々のご協力とご理解の下、平日実施にも関わらず、五島市内中学生57名、島外中学生3名の計60名の方に参加して頂くことができました。始めに、参加者全員を対象としたコース説明を行い、その後、指定3競技(柔道・剣道・陸上)別の実技講習会を実施しました。実技講習会では、ナインドットスポーツ塾長の田端健児氏(陸上)、五島市柔道協会副会長の小倉鹿太郎氏(柔道)、五島市剣道協会会長の馬場武典氏(剣道)を講師に招き、専門的な練習方法等を指導して頂きました。参加者にとって、新たな発見があり、多くの刺激を受けた機会になったのではないかと思います。今後も、スポーツコース生が各種大会で活躍し、中学生の手本となる姿を見せることができるよう、練習に励んで参ります。





長崎の式見ハイツを会場に7月25日(木)~7月31日(木)の6泊7日の日程で、「心と頭を鍛える学習合宿」が行われました。長い日で10時間40分の学習を行い、7日間で3660時間の学習をしました。恐らくこんなに長い時間学習をしたのは、人生で初めてだったのではないのでしょうか。

阿野勇之介くん(3-2)の決意表明で学習合宿をスタートしました。阿野くんは決意表明の中で、文系30番以内を達成することを自分自身の目標とすることや、この学習合宿で「クラスが変わらなければいけない、学年全体が変わらなければいけない」と決意を述べてくれました。

初日の学習状況は、なかなか良かったと思います。しかし、2日目になると前日の移動の疲れや、慣れない環境での学習のせい、集中を欠く生徒が出てきました。何よりも、長時間の学習がきつかったようで、集中力が欠ける主な原因は「座力」の無さでした。しかし、3日目以降には、生徒たちの中に「これではいけない」という強い気持ちが少しずつ芽生え、会場の雰囲気緊張感のあるものになってきました。5日目6日目には、一人一人の表情にも変化が見られてきました。3学年が本気になった時の「底力」を見るのが出来ました。

この合宿で、自分自身の「現状を知る」ことができたと思います。自分の未熟さを知り、そして、「現状を打破」するには「どうしたら良いのか」と考えてくれたのではないのでしょうか。たった1週間の努力で成績が上がるわけではないので、努力を継続する必要があります。その結論(考え方)にいたった人は、学習が続いているのではないのでしょうか。あの程度の学習で満足してはいけません。これからが本当の受験勉強ですから勘違いがないように。



「下手くその 上級者への道のりは 己が下手さを 知りて一歩め」

五高祭「絆~橋の向こうに踏み出す一歩」

今年度の五高祭は8月30日(土)と31日(日)に開催されます。現在、実行委員を中心に『絆(わ)~橋の向こうに踏み出す一歩』というテーマの下、全力で企画をしてきました。今回のテーマは、前年の「希望」というテーマを受けて、今度は私たちが大きな繋がりと、大きく踏み出したいと考え設定しました。五高生、そして来場される多くの皆さんが「絆」の大切さを実感できるよう、このテーマと真剣に向き合ってきた今年の五高祭をご期待ください。実行委員を中心に約3ヶ月にわたって考えてきたオープニングセレモニーやエンディングセレモニー、また、各文化部、各クラス、有志等様々な団体がそれぞれの絆を表現すべく懸命に準備しています。また、昨年度も好評だった「屋外特設ステージ」も実施する予定です。当日は、多くの方々の来場をお待ちしております。
文責：島崎 英範

体育祭「躍動」

いよいよ五高祭・体育祭が迫ってきました。今年の体育祭は9月7日に行われます。メインテーマは『躍動』です。これは体育祭実行委員で話し合い、一人ひとりが学年の枠を超えて協力し合い、『躍動』することで輝いて欲しいという願いを込めて決定しました。これまでどの学年も、時間がなくて工夫し、協力し合いながら一人ひとりが本番で輝くための準備を勉強とメリハリをつけて行ってきました。保護者の方々、そして地域のみならずお仕事などもあると思いますが、今年の体育祭はみんなが輝ける体育祭になります。どうぞ9月7日は五島高校第二グラウンドに足を運んでみてください。

体育祭実行委員長 山田 新一郎

五高祭(8月31日)バザーのお知らせ **体育祭(9月7日)は飲料バザーのみ**
 ○リサイクル品バザー 10:00~13:30 ○飲料バザー 10:30~13:30 ○食物バザー 11:00~13:30
 多目的教室2A・2B 洋の広場 1本110円 セミナーハウス

平和学習(8月9日)

今年も8月9日に平和学習を行いました。今年度は校内放送で特攻隊員であった神坂次郎さんが書かれた「今日われ生きてあり」を聴き、平和の尊さを学習しました。その後、世界平和を祈念する標語を作成しました。ここでいくつか紹介したいと思います。

泣き叫ぶ 赤子のそばの なきがらに 固く誓おう 平和の世界 (3年1組 中村 夏望さん)
 語り継ごう 平和な世界が 続いたため (3年2組 貞方 采子さん)
 思いやる その心が 第一歩 (3年7組 中村 史果さん)
 忘れるな 闇にかわった 夏の日を (2年3組 北川 めぐみさん)
 助け合おう 小さなことから ひとつずつ (2年6組 内海 菜緒さん)
 失くさない 尊い命 もう二度と (1年1組 松倉 光希さん)
 きっとある 小さな僕らが できること (1年5組 濱里 汐織さん)

他にもたくさん良い標語がありました。それらの思いをいつまでも忘れず、そして後世にしっかりと語り継ぐことによって、日本から世界へ「平和を祈るメッセージ」が発信できると思います。